

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



りんごの果実肥大状況

ふじの肥大は管内平均で47.8ミリとなり、昨年よりも45ミリほど大きく推移しています（昨年比110.4%、平年比111.7%）。

【7月1日現在】

表1：管内の品種別りんご肥大状況

(7月1日調査)

品 種	横径（単位：ミリ）					
	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	昨 年	平 年
ふ じ	50.9	43.2	49.2	47.8	43.3	42.8
王 林	46.8	47.1	50.1	48.0	42.0	43.2
つがる	51.8	53.0	53.4	52.7	46.4	46.7

※平年値は過去10年間平均値

良品質・安定生産に向けて

一通り仕上げ摘果を終了した後は、7月中旬を目途に見落としや過着果の部分がなか確認し、必ず見直し摘果を行いましょう。特にふじの場合は過着果にすると隔年結果を起こしやすいので、成らせすぎないように十分注意して下さい（ふじの標準的な着果程度…4頂芽に1果、着果率…25%）。

徒長枝（バヤ）整理や支柱入れ

徒長枝を整理することで農薬散布時に薬剤の通りが良くなるためめつタムシやカイガラムシ、ハダニ類などの害虫発生を減らすことに繋がります。また、日光を樹冠内部にまで当て、葉の光合成活動を促すことにも繋がります。ただし、直射日光がきつく、気温が高い時に行くと果面や葉の原因になるので注意してください。

ハダニ類について

ハダニ類は、気温が高くなると急増する傾向にあります。早期発見が重要な力ギを握るため、予察

を図りましょう。また、殺ダニ剤は予察を基に選択し、適期防除に努めて下さい。

落果防止剤の使い方

ストッポールは、葉から吸収されて効果を出すため、葉に十分かかるように散布してください。尚、葉摘みは、散布5日後頃から行いましょう。ただし、つがるに散布する場合は、高温時を避けて下さい（28℃以上）。新梢の先端部分に葉害が発生する場合があります。

農薬の使用時期・回数に注意

極早生種や早生種における収穫時期が迫ってきました。恋空やきおつ、着色優良系統のつがる等がある方は、収穫前45日や30日の薬剤に十分注意しましょう。

水稻について

幼穂形成期を終え、穂ばらみ期にはいります。平均気温で20℃以下になる場合には15センチ以上の深水で管理し、幼穂の保温に努めてください。高温時には4センチ程度の浅水とし、高温が続く場合には、時々水の入れ替えをし、根の老化防止に努めてください。また畦畔の草刈りはカメムシ被害防止のため、7月下旬で終了して

ださい。

また、中干しを十分に出来なかった場合は、おおむね出穂7日前（7月20～23日頃）から、出穂期までの期間（7月末を目安）に落水し地固めをおこなってください。

●りんご病害虫防除暦（第8～9回目）

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備 考
8	500㍓	7月中旬	ダイパワー（水） オンリーワンF トランスフォームF カルシウム剤	1000倍 2000倍 4000倍	○褐斑病対策としてオンリーワンF 2000倍を加用してください。 ○コンフューザーR未設置園、近隣に放任園がある園地、ヒメボクトウ又はオオタバコガの発生が見られる園地では、殺虫剤を加用する。
9	500㍓	7月下旬	オーソサイド（水） オリオン（水） カルシウム剤	800倍 1000倍	

青年部通信

事務局
蒔苗 陸



青年部では、6月10日に育苗作業の慰労会を開催いたしました。相馬球場でソフトボール大会を行い、昨年も好評だったことから、2年連続の企画となりました。部員からは、「町会のソフトボール大会を控えているためその前の体慣らしに丁度良い」との声もあり、多くの部員が参加しました。当日は、天候にも恵まれ比較的涼しい気候の中でプレーすることができました。今回は参加した部員への景品も用意し、中には豪華な景品もあったことから、昨年以上に白熱した試合が繰り広げられました。試合は、途中で7点差ほど開く場面もありましたが、途中から特別ルールを追加したことで、全員で楽しみながらも最後まで均衡した展開となりました。普段はなかなか交流がない部員同士も、この慰労会を通じて親睦を深めることができ、青年部としての団結力をさらに高める有意義な機会となりました。



また、6月24日(水)には青年部夜間勉強会を実施し、「農業について」をテーマに、農業を選択する際の注意点や基礎知識などを学びました。勉強会では、農業振興課の齊藤大貴主任に講師を務めていただき、青年部員が日頃から疑問に思っている内容について分かりやすく解説していただきました。11名ほどの部員が参加した勉強会となりましたが、次回はさらに参加者が増えるよう、来月に向けて対策を立てていきたいです。

6月26日(金)には、相馬ごども園にて開催された青森県JA女性組織協議会主催の「しゃかしやかおむすび&みそ玉教室」にお手伝いとして参加してきました。この活動は子どもたちの食農教育につなげていくもので、園にお子さんが通っている部員を中心に協力いたしました。教室にはサプライズでお米大使も駆けつけてくれ、子どもたちも元気いっぱい、楽しくおむすびを作っていました。



いきいき女性部通信

事務局 堀井 裕子



6月12日、農協会館において「JA女性大会・夏期研修会」が開催されました。当JA女性部からも多くの部員が参加し、日頃の活動の成果やこれからの食育活動に向けた新たな知識を深める、大変有意義な一日となりました。

次世代へつなぐ熱い想い！

田澤部長が活動体験を発表

午前中に開催されたJA女性大会では、組織活動体験発表が行われました。当JA女性部部長の田澤真由美さんが壇上に立ち、「私たち女性部が次世代に継げる道を」と題して堂々と発表を披露しました。持ち時間10分という制限のな



持ち時間内で終わった田澤部長の発表

か、なんと9分50秒という時間の管理はみごとでした。①「女性部が歩んできた歴史」、②リンゴ学習やお米学習をはじめとする、子供たちへの「食育活動」③「ねぶたまつりの炊き出し」や「JAまつりへの出店」など、地域に根差した活動④「これからの女性部が向き合うべき未来の課題」について、非常に充実した内容でした。会場からは大きな拍手が送られ、今回の発表で見つかった細かな問題点をブラッシュアップし、8月に福島県で開催される大会に臨みます。田澤部長のさらなる活躍に、一同の期待が高まっています。

実践！ みそ玉づくり&

これからの活動への熱い議論

午後からの夏期研修会では、今年度から新たにスタートする活動「じゃかしゃかおにぎり&みそ玉教室」に向けた事前研修が行われました。

今回は、部員たちが実際に「みそ玉づくり」を体験。今後、地元

の保育園へ出張教室に赴く予定があるため、参加した部員たちの目つきは真剣そのものです。

実際に手を動かすことで、「自分たちが教えるときは、ここを工夫して気をつけようね」「子供たちが扱いやすいように、味噌はこうじ味噌ではなく『こし味噌』を使いたいね」といった、実践を見据えた具体的なアイデアや意見が活発に飛び交いました。

伝統調味料×牛乳で美味しく減塩！

Jミルクの西沢彩乃氏をお招きし、「牛乳と乳和食を学ぼう」と題した講演会も開催されました。牛乳パックの上部にある「切欠き（くぼみ）」は、視覚障害の方が触って種類や表裏を識別できるように工夫されていることや味噌や醤油などの伝統調味料に牛乳を組み合わせてることで、「コクや旨味が引き立ち、風味を損なわずに食塩や出汁を減らせる「乳和食」の魅力について日常の食卓や、今後の食育活動にもすぐに活かせる知識を学びました。

【お楽しみ企画】

研ぎ澄まされた味覚で見事快挙！

「牛乳4種飲み比べ」で全問正解！

研修の締めくくりには、普段の

生活でおなじみの牛乳4種類を当てる「飲み比べクイズ」が実施されました。(1)萩原牛乳(2)あおい森の牛乳(3)タカナシ牛乳(4)森永あじわい便りが選抜されました。「全問正解のJAには豪華プレゼント進呈」というと、会場は熱気に溢れました。参加者は五感を研ぎ澄まし、わずかな風味やコクの違いに集中しながら行いました。各JA女性部が緊張の面持ちで結果を発表するなか、なんと当JA女性部は見事に全問正解を達成！笑顔で豪華プレゼントを勝ち取りました。今回の研修で得た学びや団結力を糧に、これからも地域や子供たちの笑顔のために、元気に活動を続けてまいります。



色々な具材で自分だけのみそ玉!!



全問正解に嬉しいプレゼント